

黄鶴 kou kaku

No. 19
2010年

特集

創立90周年記念事業

中高校舎リニューアル工事

川村学園女子大学附属保育園

世代間交流

川村幼稚園

初めての参観日

川村小学校

6年間の夢科学習の第一歩

川村中学校

授業の様子から

川村高等学校

第8校舎での生活、「健康ノート」の導入

川村学園女子大学

活躍している学生

キャンパス紹介

自然豊かな川村学園女子大学の我孫子キャンパスには、1号館から15号館までが立ち並んでいます。なかでも円形の黄鶴館と14号館はシンボルとなっています。



Etsuko Yamane

ホオズキ By Etsuko Yamane



学校法人 川村学園



中高校舎(第2校舎) リニューアル概要

目的

西棟の耐震強化と内外装の全面改修。
校舎内は明るく、快適な設備のもとで落ち
着いて学校生活を送ることができる拠点を
目指します。

工期

平成22年7月15日から平成23年12月末まで
(予定)

7月15日に着工した工事は、まず東棟1階部分の改修を行い、9月15日から使用できるようにしました。その関係で中学校の夏休みは、例年より長期間となりましたが、9月には蓼科山荘を使用した3泊4日の蓼科学習合宿を実施し、9教科にわたるプログラムに取り組み、学校に戻ってからの生活がスムーズに運ぶように努めました。中学生が東棟で生活を送る間、平成23年3月までの予定で西棟の耐震補強や校舎内の改修を進めます。中学生は平成23年4月より出来上がった西棟に移動し、その後は12月末の予定で東棟

創立90周年記念事業 中高校舎リニューアル工事

—— 学園長挨拶 ——

川村学園 学園長

川村 正澄



本 学園は平成26年に創立90周年を迎えます。私立女子教育機関の先駆けの一つとして、今日まで脈々と学園の運営に係わり歴史を創って来られた先人の皆様に対しまして深い感謝の念を抱くと共に、その伝統の重さをひしひしと感じております。

周知の事でありませんが、学園は創立者川村文字先生が関東大震災の惨状を目の当たりにされ、大都市東京の復興、更には、健全な社会の構築のためには女性の参加が不可欠であるとお考えから女学院を開設されました。今日、この運営を継いだ私は、激変する社会・環境、そして人々の生活の中に、常に先見性を失わず、時代を先取りしながら、一方で原点回帰の精神を大切にして参りたいと思っております。それは、どんな時代にも不朽の「心の教育」を源泉とした建学の精神を遵守すると共に、その実践の場として充実した教育環境の維持・管理にあります。

創立者は、大正・昭和の激動の社会体験から恒久的平和な社会を求め、その中で子ども達が安全で安心して学べるよう、大正14年、当時としては画期的なスチーム暖房、水洗手洗いを備えた鉄筋コンクリート校舎を建設いたしました。私は、創立者の高遠な構想を受け継ぎながら、現代における児童・生徒・学生の皆さんが充実した楽しい学校生活を過ごす

工 事期間中、高等学校は川村学園・第8校舎を使用します。そこで、夏休みに入る直前の7月10日に高校生は第8校舎の見学を行い、夏休み明けからの学校生活をシミュレーションしました。夏休み開始を7月12日から、終了を8月23日と前倒しとし、実質夏休みの日数は例年同様ながら、速やかな工事着工が可能となりました。

中学校はリニューアル工事を区分して実施することにより、中高校舎内での移動をしながら竣工を迎えることとなります。そのため、当然のことながら工事は安全第一とし、校舎内の工事エリアの立ち入りは禁止し、工事車両や機材などを遮断する塀を中庭内に作って工事を進めています。また、学園祭や式典などの学校行事の際は工事を行いません。

7月15日に着工した工事は、まず東棟1階部分の改修を行い、9月15日から使用できるようにしました。その関係で中学校の夏休みは、例年より長期間となりましたが、9月には蓼科山荘を使用した3泊4日の蓼科学習合宿を実施し、9教科にわたるプログラムに取り組み、学校に戻ってからの生活がスムーズに運ぶように努めました。中学生が東棟で生活を送る間、平成23年3月までの予定で西棟の耐震補強や校舎内の改修を進めます。中学生は平成23年4月より出来上がった西棟に移動し、その後は12月末の予定で東棟

拠点づくりに邁進していく事に大きな使命を感じております。

さて、今回の創立記念事業の一環といたしましたは、昨今の様々な要求に応えるべく中学・高等学校校舎(第2校舎)の新装化を計画いたしました。この事業のテーマを安全・安心な校舎造りといたしまして、阪神淡路大震災後の新耐震基準を充分にクリアすると共に、見た目も配慮した耐震補強を施して参ります。工事方法といたしましては、全面撤去となる建て替え工事が及ぼす地域社会への影響、そして地球環境保護を考へ、世界的な常識である物を大切にするとエコの観点から、元来、骨格のしっかりとした設計、造りになっている建物を更に使用すべく決断いたしました。「平成のリニューアル工事」を始動させました。

改修後の新第2校舎を現代の教育環境を追及した校舎にするために、設計会議に中学校・高等学校の先生方にご参加いただき、生徒の視線並びに、現場で教育に携わる教員の視線からの使い勝手をヒアリングしながら、具体的な設計案におとし込むことに重きをおいて参りました。結果として、登下校時の生徒の動線を大きく変更いたします。そして、中学生・高校生の伸び伸びと自主自発的な行動が生かせる教育の場として、第1校舎、グラウンドそして新第2

の工事にあたります。第8校舎に移転した高校生がリニューアルした中高校舎に戻る時期は工事の進捗状況を見ながら判断し、可能な限り早い時点でお知らせします。

リニューアル後の校舎について、その一部を紹介します。

外観

外壁にはピンクやチャコールグレーなどの色が複雑に入り混じった、凹凸のある花崗岩をイメージしたゴムのレンガを使用しています。万が一、大震災で落下するようなことがあっても、ゴムの特性を活かし、破片が飛び散ることを防ぐことができます。川村学園目白キャンパス内はピンクを基調とした建物ですが、地上5階建ての中高校舎はより個性的な雰囲気があることを思っています。そして、創立90年を迎える記念事業のため、歴史あるこの目白の地の景観を十分意識した佇まいにしています。

ラウンジ

1階の中央部に位置し、70席あるゆったりとした落ち着いたカフェのような雰囲気です。テーブル、椅子も色合いがかわいらしく、心地よい空間を作っています。60型液晶テレビやガラス張りのトロフィー棚に加え、暖炉のオブジェを造り独創的に演出していきます。完成後には採光もよく、窓辺から差し込む光がキラキラと輝く、

トイレ

明るい雰囲気リニューアルします。洋式トイレにし、大きい姿見形式の鏡を設置します。

調理実習室2

女子校なので、衣食住に直結した家庭科の実習設備をより充実させることも重要なコンセプトの一つとしてあります。家庭科室を5階に集約させ、被服室と調理実習室を配置しました。中でも調理実習室2は、時代に即したIH熱源のシステムキッチンと6台設置し、おしゃれなキッチンスタジオといった空間で、人気のお菓子作りが一層楽しくなることでしょう。作業台とランチテーブルを分けることにより、ゆったりとした気分での調理したメニューをいただくことができます。

リニューアル工事期間中、中学校・高等学校においては行事等の変更や活動の制約が生じるようになりますが、それらを十分に補填できるように日々の教育活動にあたります。

保護者の皆様におかれましては、ここに述べました本学園の教育方針に温かいご理解をいただきまして、「中高校舎リニューアル工事」にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

校舎を総合的に使用することで、教育成果が上がるよう、バランスをはかってまいります。本学園の教育を支える根底は、きめ細やかさと在校生・教職員・ご家庭との連携にあると考えております。そのため、生徒が教員と個々にゆっくりと話せる場、保護者の皆様をお迎えする場にも配慮いたしております。

今回の工事にあたり、高校生には7月に仮校舎となる第8校舎に移転をしていただきました。また中学生には工事を推し進めながらの校舎での生活をお願いしますが、新第2校舎での新たな生活を楽しみに暫くの間、授業や行事の一つ一つを前向きに取り組んでいっていただきたいと思っております。

また、生徒が生活しながらの段階的な工事ということで、本工事関係者の方々には今夏の記録的な猛暑の中、24時間体制で取り組んでいただき、感謝いたしております。竣工を迎えるまで引き続き恙無く工事を遂行いただきますよう心よりお願い申し上げます。

リニューアルされる中高校舎での、新たな 学校生活に関する疑問にお答えします。

Q1 まず、安全対策を教えてください。

A 職員室での集中管理方式をとり、迅速な対応にあたります。

新耐震基準を充分クリアした耐震補強を施しています。また停電がおきても、ライフラインを確保できるよう自家発電装置を従来通り、導入しています。

日々の学校生活の中では、電気、空調、放送設備において集中管理方式をとり、職員室に一元化します。そして、監視カメラを数台設置、職員室などで不審者侵入等の対応指揮に迅速にあたります。異常を知らせる警報は第1校舎にもつながり、学園全体として安全をみはります。



エントランスホール

Q2 校舎内の様子を教えてください。まずは、教室周辺からお願いします。

A 教室は、明るく快適な空間で、落ち着いて授業に集中できる環境となっています。

教室は2階・3階を中心に配置しています。教室には木製ロッカーとコート掛けを作りつけにするなどして利便性を高めました。毎日使用する机、椅子、教卓は全て新調し、照明設備を全て入れ替え、十分な照度を確保しています。また、エアコンによる空調管理は教室単位でのコントロールが可能となり、より快適な学習環境をサポートします。

床は淡いベージュ色の汚れがとれやすいビニール床、廊下は以前設置されていたロッカーがなくなることにより、広くゆとりとした空間に変わります。階段の配置は変わりませんが、色分けされることにより明るい印象となります。

POINT!

2階から4階のニッチ部分には手洗い場を新設し、手洗いうがいを励行します。

Q3 特別教室の特徴を教えてください。

A 特別教室はそれぞれの役割を加味し、効果的に学習できるよう設備を一層拡充します。

4階・5階に理科室、アトリエ1・2、視聴覚室、家庭科室(被服室、調理実習室1・2)を設置します。上層階なので目白通り越しの景色も楽しめます。



調理実習室2パース

新設の視聴覚室には、リア投影式スクリーンを設置し、音声は5.1chサラウンドシステムとします。そして、小講堂に次ぐ広さを確保し、学年単位の収容が可能となります。また、大講堂に近いので、大講堂使用時の控え室として使用できます。調理実習室1では、教卓手元カメラの映像がプラズマディスプレイ4台に映し出されます。調理実習室2では、IHシステムキッチンで快適な調理を行うことができます。

なお、学園の式典など厳粛な雰囲気を出す大講堂においても、じゅうたんの全面張り替えを行います。

Q4 2階より上の階の様子はわかりましたが、地下や1階はどのように変わりますか。

A 地下には体育関連施設を集約します。

地下2階に第2体育館、ダンスルーム、クラブ倉庫、地下1階にはフィットネスルーム、コンディショニングルーム、ロッカールームを作ります。体育館の床は磨いた上で再塗装を施し、リニューアルします。ダンスルームは全面鏡を設置し、本格的なスタジオレッスンが可能となります。モダンダンス部、体操部、民族舞踊部などの練習にも熱が入ることでしょう。

フィットネスルームにも全面鏡を取り付けます。十分な広さも確保し、運動部の雨天時プログラムが行われます。

なお、平成23年の夏休みには第1グラウンドを改修する予定を立てています。

A 1階に生徒の活躍を支える場、見守る場を用意します。

1階中央に大きなラウンジができることは前述しましたが、その他中高共同の生徒会室を作ります。企画会議や作業などで生徒会の役員達が集う拠点として使用します。また、鶴友会クラブの部室も拡充します。鶴友会クラブそれぞれの活動場所への移動や荷物の運搬などの効率を考慮して1階に設置したため、動線が整います。

そして、職員室は以前と同じ1階の同じ場所になります。用件のある先生には、職員席手前の生徒受付カウンターから声をかけてください。用件によっては、生徒受付カウンターの後方に位置するミーティングルームで、じっくりと授業の確認や質問等をすることができます。このミーティングルームも要望により広くしました。また非常勤の先生方の机も、職員室内におくので声がかけやすくなります。

また、保健室は職員室と隣接させ、より一層その機能、設備を充実させて生徒をしっかりと見守ります。カウンセリングルームも従来どおり開設していきます。



ラウンジ

Q5 最後に、学校生活で変わるところを教えてください。

A 新しく西門を作り、そこから校舎地下のエントランスへと進む新ルートができます。

従来の目白通り沿いのピロティエーからの門は閉鎖し、新しく西門をつくります。登下校時は西門を使用し、外階段を利用した地下のエントランスへの出入りをスムーズにします。そして登校時には、シューズボックスコーナーで校内履きへと履き替えます。

POINT!

エントランスには、1人ずつ使用できる傘立てを設置します。教室への傘の持ち運びがなくなるので、身軽に、そして水滴の落ちる心配がなくなります。

世代間交流

保育園では、年に3回ケアプラザ柴崎の方々子どもたちが触れ合える「世代間交流」を行い、地域との交流を深めています。

6月 リズム遊び

ケ アプラザ柴崎（介護老人保健施設）のおじいちゃん、おばあちゃんが来園し、0歳児・1歳児を含む全園児との交流から始まり、2歳児から5歳児の園児たちは大きな太鼓の周りを囲みました。初めは緊張していた子どもたちでしたが、ケア



プラザ柴崎の施設長さんの指揮のもと、マラカスなどの楽器を使用して、一緒にリズム遊びを進められるまでになりました。次第に笑顔を取り戻した子どもたちは、楽しいひと時をおじいちゃん、おばあちゃんとお過ごし、知らない歌や見たことのない楽器、毬つきなどを見せて頂き、日常の保育では味わえない刺激を、より多く受けているようです。リズム遊びの後は、一人ひとり「ありがとう」の握手をし、優しく手をつないだり、車いすを押し回して玄関まで見送りに行きます。その際「また来てね」「元気でいてください」と、声をかけています。おじいちゃん、おばあちゃんからも「保育園に来るたびに、元気がもらえるよ」と喜んで頂いています。

10月 バス遠足

4 歳：5歳児を対象に、1年ごとに「茨城県大洗水族館」と「成田航空科学博物館」への「バス遠足」を交互に行っています。今年も、「航空科学博物館」で交流をしました。今回初めて行った「折り紙飛行機作り」では、お互い教えあいながら、今までよりも多くの交流を図ることが出来



ました。子どもたちも一緒に同じものを作ることで、自然と会話も弾み、「上手だね」「私の先生をしてもらっています」と楽しそうな姿が見受けられました。別れの際にはおじいちゃん、おばあちゃんとハイタッチをしたり、抱き合ったりして別れを惜しむ姿も見られました。

3月 ありがとうの会

5 歳児が保育園を代表して、ケアプラザ柴崎を訪問します。ここでは、1年間の感謝の気持ちを込めて、運動会で演



技したソーラン節などを披露し、リズム遊びを共に楽しんだりして、楽しく触れ合います。また、「おじいちゃん、おばあちゃんにあげるの」「きれいにできたよ」と子どもたちの思いが詰まっている「写真立て」に、10月のバス遠足の写真を入れプレゼントします。

世代間交流では、地域交流を深めることはもちろん、多くの方々との触れ合う機会を通し、子どもたちに、より一層「思いやりの心」や「やさしい心」が育まれればとの思いが強くなります。

初めての参観日

おかあさんのすてきな笑顔と毎日のおいしいお料理に、
ありがとうの気持ちをたくさんたくさん伝えます。

幼

幼稚園の新学期は、子ども・家庭・幼稚園三者三様の夢と期待と不安が、風船のようにシャボン玉のように空をさまよっています。大きく膨らみすぎて大きな音とも弾けてしまう物、大きいながら音もなく消えてしまう物、また一度にたくさん風船やシャボン玉との出会いに、あつという間に自然消滅してしまう物もあります。でもそんな事を繰り返しながら、上手に空間を使って形を維持し続ける術を学んでいきます。

そんな保育室の空間に、少しずつ落ち着きを感じるようになった5月の連休明けに行われるのが『母の日参観』です。毎日不安ながらも園生活のリズムを体得し、ちよっとお姉さんになった気分の子とも達と、いつもは玄関で別れ保育室での様子が気になりなお母様とが、初めて迎える特別な日は、両者にとって、とても楽しい行事といえます。

当日は、いつもより少し遅い登園となりますが、笑顔がいっぱい集まります。緊張した面持ちも見受けられますが、基本は「うれしい」です。

まずはいつもと同じ、「おはようございます。」のご挨拶から、その後は下駄箱

に靴を入れ、お母様と手をつないで保育室に向かいます。その保育室では、これまでの心配をすべて解消しようとするかのように、「これはどこ？あれはなに？」お母様の口も手も矢継ぎ早に動きますから、どこまでいつもと同じにできるかが問題です。それでも、温かい雰囲気を感じられるひとときではあります。

ひとしきり母子でやり取りしたあとは、出席をとって毎日の活動開始となります。今日は『母の日参観』、お母様と一緒にを行う活動がメインです。年少は廊下を飾る壁面製作『イチゴ』を作り、年中は細かいビーズ通しをお願いして『ストラップ』を作りました。年長は『日々草の種まき』を一緒にしていただきました。どれもすてきな出来上がり、大満足の顔が輝きを増していました。

そしていよいよ、この日のために数日前から取り組んできた歌や、製作物のお披露目です。平成22年度プレセントの歌は、年少組『おかあさんのまね』・『好きなものなあに』、年中組『すきすきお母さん』、年長組『ママの右手は魔法の手』。製作物は、どの学年も大好きなお母様の顔を描き、それぞれの台紙で飾り、感

年中組 似顔絵プレゼント



7月には、年長組が母の日参観で種まきをした日々草が咲きはじまりました。



年少組

年長組

謝の気持ちを込めて手渡しました。この日は傍目にも胸が熱くなる瞬間がありますから、お母様の目が潤むのは無理からぬことです。そんな思いを、親子

でいつまでも持ち続けることができます。と願いながら毎年この行事を終ります。

6年間の蓼科学習の第一歩

初めての2泊3日、友達との協力で乗り越えます。

川

村小学校では、知育・徳育・体育の総合学習として、蓼科学習を行っています。都会では経験することができない蓼科の自然の中で集団生活や体験学習を通して、児童の成長が期待されます。その一連のカリキュラムの中で、初めの第一歩として取り組む1年生の夏の蓼科学習の様子を在校生の思い出とともに紹介します。

1年生は全員、毎年夏休みに入るとすぐに、蓼科学習に参加します。入学して4ヶ月、保育園や幼稚園での1泊保育を経験していても、親元を離れ、宿泊を伴う遠方での集団生活に、期待と多少の不安が交錯しているのが実情と言えます。そのために、事前指導を十分行い、自信を持って蓼科学習に参加できるように、配慮しています。また、万全を期するため1、2年生の夏の蓼科学習には、学年を超え全教師が引率にあたります。

6月の初めには、保護者に向けて蓼科学習についてビデオを見ながらの説明会を行います。教師間の打ち合わせも始まります。班の構成、生活面などについて話し合いを重ね、7月初めには児童に「蓼科学習のしおり」を配布します。しおりを手にした子ども達は、歓声を上げながらしおりを読み、蓼科の明かりを消して、大きな音とともに夜空に輝く花火に歓声をあげました。一日の終わりににはエントランスホールに集まり夜礼を行い、副校長先生のお話と明日の連絡などを聞きます。「おやすみなさい」のあいさつをして部屋に戻り、寝る準備をします。友達と協力してふとんを敷き、パジャマに着替えて消灯です。

2日目

朝

6時半に放送が入り起床です。ふとんをたたみ着替えをし、洗面を済ませます。水筒係はその間に班全員の水筒をエントランスに持って行き、先生方にお茶を入れてもらいます。朝礼はテニスコートで行います。すがすがしい高原の朝の空気を胸いっぱい吸い込んで、新たな気持ちで朝礼が始まります。ラジオ体操を行い、小鳥の声を聞きながら山荘周辺を散策します。朝食をとった後、女神湖ハイキングへ出発します。1年生の女神湖ハイキングに始まり、蓼科学習の集大成である6年生の蓼科山登山まで、各学年ともハイキングや登山を経験します。毎年このながら1年生は、山荘から初めて見る蓼科山に、驚きと期待で胸を弾ませます。

女神湖に到着。約1時間半をかけて湖畔を1周します。自然の中、湿原の植物を見ながら木道を歩きます。木道が終わると、都会ではなかなか味わうことができない自然道に出ます。途中、湧き水に手を浸し、その冷たさに感動したり、休憩では、お茶を飲んだりアメをなめたりしながら、疲れ

への期待を膨らませます。各クラスとも8班の編成で、係分担任は、班長、水筒係、風呂・整頓係、食事係です。

1日目

バ

スで蓼科に向けて出発します。お見送りのおうちの方と別れ、途中、トイレ休憩を取りながら、昼食場所へ。昼食を済ませ、一路山道を蓼科山荘まで登ります。

山荘到着後、各班の担当教師が紹介され、期間中は担当教師が班の児童の面倒をみます。宅急便で届いた荷物を部屋に置き、担当教師と、先生方の控え室、教室、保健室、食堂、お風呂などの山荘内や外に出て敷地内の見学をします。その後、林の中や山荘周辺などで自由に外遊びをし、夕食前に入浴となります。夕食の30分前から食事係と教師で配膳をし、配膳が終わると全員が食堂に入り夕食です。今年のメニューは鶏のから揚げとマカロニグラタンでした。夕食後、食事係は食堂の片づけ、清掃をします。花火の前に、山荘の木々の間を飛び交うホタルを見ました。そしていよいよ子ども達が楽しみにしている花火です。山荘

を癒します。休憩後は、白樺の木々の間からぞくぞく蓼科山を見ながらゴールを目指して歩きます。湖畔を1周した後は、山荘に戻り昼食をとります。午後からは、お絵かきです。班ごとに山荘内の道路いっばいに色とりどりのチョークで、お花畑や花火、海の中の魚達、空想の町など思い思いに描いていきます。6年生に1年生の蓼科学習の思い出をたずねると、このお絵かきが数多く上がりました。入浴、夕食、夜礼に続き、荷物整理です。明日は東京に帰るので、忘れ物が無いように宅急便の荷物をつくります。一段落したところで消灯となります。

3日目

今

日は東京に帰る日です。起床後ふとんをたたみ、制服に着替えます。朝礼、朝食を済ませ、3日間お世話になった部屋の掃除をします。この部屋の清掃も6年間続きます。9時30分に山荘を出発。トイレ休憩、昼食をはさみ、一路東京を目指します。

学校に着くと、お話をしてくださった先生方にお礼の挨拶をし、お迎えのおうちの方と家路に着きます。行きのバスに乗り込む時の大きな赤いリュックサックが、帰りにはすっかり背中に馴染んで見えるのが不思議です。

1年生の思い出

夏の蓼科学習



写真:左より 現1年生・2年生・3年生・4年生・5年生・6年生

6年間のカリキュラムを終えた今、一番初めの蓼科学習で印象に残っていることを教えてください。



6年生へインタビュー

- 道路いっばいにチョークでお絵かきをした事が印象に残っています。今まで好きな絵をこんなに思う存分描くことはなかったので、はりきって描きました。山の新鮮な空気の中でたくさん絵を描き、家を離れてさびしかった心が安らいだことを覚えています。女神湖ではキラキラ光る湖面よりも、アヒルのボートが目がいてしまいました。
- 1年生の時の蓼科はあまり記憶にありませんでした。そこで、その時のしおりを見ました。日程表を見ると、花火をやったときのことが鮮明によみがえってきました。
- 山荘の中では、不安ばかりで大泣きしていました。部屋の中では先生がなぞなぞをしてくれているのに一人で泣いていました。私は3年生まで泣いていましたが、今は何で泣いていたのかなと思います。
- 初めての共同生活で最初は不安でしたが、いろいろな活動を通して、今まで話したことのない友達とも仲良くなる事が出来ました。また、一人できないことも、みんなで協力したり、助け合うことで、できるようになる事があるなど、学び成長して帰って来ることができました。
- 一番楽しかった思い出は、チョークで道路に絵を描いたことです。チョークが小さくなるまでかいたので、とても指が痛くなった思い出があります。でもやはり、一番印象に残ったのは、みんなお母さんや家族と離れるのがいやで泣き出してしまったことです。特に、夜になると寂しくなりました。蓼科の思い出は1年生から6年生まで合わせたらたくさんありすぎて思い出せないくらいです。
- 期待と不安とで胸がいっぱいで、母と何度も持っていき着替えの確認をしていたのを覚えています。しかし、蓼科山荘に着くと、不安はふっとび、夜大勢でお風呂に入ったり、一緒におふとんを並べて寝られたのは、とても楽しく興奮しました。特に、地面いっばいにチョークを使って思いっきり絵を描いたことは、今でも頭の中に残っています。6年間の蓼科学習では、四季やたくさんの自然を感じることができました。中でも、スキーで行った一面の雪景色や、夜の光り輝く星空は一生の思い出となりました。小学校最後の蓼科学習の山登りでは、大きな達成感を味わうことができ、またキャンプファイヤーでは、改めて友達のすばらしさを実感し、涙があふれました。蓼科での思い出はずっと忘れられないと思います。

授業の様子から

9教科の必修に加え、2・3年次には、独自のカリキュラムで選択科目を設定しています。



中学校の授業について

学 習は、まず土台作りが大切です。そのため中学校では基礎基本の定着を図り、中学生として学ぶべきことを、じっくりと時間をかけて身に付けられるようにしています。特に数学と英語では習熟度別授業を行い、個々の力を伸ばすことができます。また、授業編成をとっています。

国語・数学・英語においては日頃から小テストを行っています。定期試験のような長い範囲ではなく、範囲を細かく設定して理解度を確認しています。理解不足の点をいち早く発見し、今後の学習に活かすことは大切なことです。反復学習をする習慣を身に付けることが、自らの力を伸ばすと考えています。

中学校は義務教育ですから9教科が必修となります。各自の興味関心を伸ばしつつ、成長著しいこの時期に様々な分野の多くのことを吸収できるように考え、授業を行っています。

中学校では現在、ネイティブの講師による英会話の授業を全学年で実施し、2年次の保健体育では水泳の授業を実施しています。また、2・3年次では選択科目を設定し、各自が興味のある科目に取り組んでいます。選択保健体育の中には、2年次は合気道、日本舞踊、3年次では日本舞踊・琉球舞踊があり、一挙一動に集中し、日本が受け継いできた文化を学んでいます。機会がないとなかなか触れることのできないものです。選択授業として取り入れることで、専門性の高い分野に触れることができます。

ここでは、英会話、水泳、合気道、日本舞踊、琉球舞踊の授業についてご紹介します。



ネイティブの授業できちんとした発音を身につけます。

英語 「英会話」

Good afternoon, everyone!
"Good afternoon, Ms. Critchley."

元気な挨拶で、英会話の授業が始まりました。本校では、自分の考えを英語で表現する力を養成するために、週5時間の習熟度別授業のほかに、週1時間はネイティブの講師による英会話の授業を実施しています。ここでは、3年生の9月最初の授業を例に、英会話の授業の様子を報告します。

始まりの挨拶の後、講師は生徒に曜日・日付・天気・時刻をテンポ良く質問し、確認していきます。50分授業の全て英語で行われます。次に、バズルやクイズ、歌といったwriting E活動に移ります。多くの生徒はこの活動を毎回楽しんで行っています。その後、講師が夏休みにアメリカに帰省したことについて写真や地図を使って生徒に語ります。生徒は熱心に耳を傾け、話の中に出てくる新出単語・文法事項も自然に理解している様子です。新出事項の確認・練習をした後、生徒は自分自身の夏休みについてそれぞれまとめ、最後に皆の前でプレゼンテーションをします。

保健体育 「中2水泳授業」

中 学2年生では、身体の成長と共に運動量や活動範囲が広がり、技術の修得過程において怪我をする可能性が出てきます。そこで、水泳の授業では健全な身体作りと安全に対する学習をしています。



2リットルのペットボトルを使い、浮力を体感できました。

現行では、4月から11月末まで水泳の授業を実施しています。水に慣れ親しみ、楽しみながら行うために水球を取り入れて授業展開しています。水中でボールを追いかけるうちに自然と身体を動かすことができます。実際の水球とは違い、足がプールの底のつく状態でバスやシュートができ、ゲームのルールも簡単なものにして、水泳が苦手な生徒もそうでない生徒も一緒に楽しく授業に取り組んでいます。また、夏休みに増える水難事故に備えて着衣泳を実施し、安全に夏休みが過ごせるように指導しています。服を着ている状態では、クロールよりも平泳ぎや浮くものに掴まっていた方が体力を使わないですみ、楽だということを体験します。その他にも落ちたところに戻るといったことや2リットルのペットボトルのみでプールに浮いて救助を待つなど、不意に水の中に落ちたときにパニックを起こさないために色々な対処法や体験をさせています。その後、11月末まで平泳ぎができるように授業を展開しています。平泳ぎが得意な生徒から苦手な生徒までを3つのグループに分けて個々の技能に応じた授業内容となり、ほとんどの生徒が25m以上を泳ぎまわることができるようになります。安全に対する意識を深めて12月の保健の授業「傷害の防止」へと学習を繋げていきます。

こうして4月から水泳を通して、成長期に大切な身体作りをし、安全に対する意識を深めることができる授業計画となっています。

選

択体育では、2年次に合気道と日本舞踊、3年次に日本舞踊と琉球舞踊を開講しています。

合気道では、構え、基本姿勢を繰り返し、護身技を身につけていきます。臂力の養成、体の変更、終末動作を重心移動を意識して臨みます。受身も技を体得するうえで重要となります。1学期(前期)は基本技「正面打ち一ヶ条抑え」まで進みます。2学期(後期)には生徒は、相対での基本動作が主となり、「正面打ち三ヶ条抑え」、「正面打ち四ヶ条抑え」、「片手持ち側面入身投げ」、「横面打ち正面入身投げ」まで実践していきます。



合気道指導員の先生により、気迫のこもった掛け声が響きます。



1学期(前期)の終わりには、長唄三味線の演奏にあわせ「さくら」を披露しました。

日本舞踊では、浴衣の着方やたたみ方はもちろんのこと、礼の仕方や立ち居振舞いにまで及ぶ学習をしています。またお三味線や鼓や太鼓などの和楽器に触れて、演奏することでさらに興味関心を深めることができます。流派は30年余りの最も古い歴史を有す「西川流」です。また、2学期(後期)には琉球舞踊となります。琉球王朝の時代から宮廷舞踊として踊り継がれてきているものを、身近に感じて楽しみながら踊ることができるようになります。独特の旋律を奏でる琉球舞踊は、生徒にとって新鮮な感動を覚えながら踊ることができているようです。仕上げは、紅型の衣裳と花笠を身に付けて発表をします。

第8校舎での生活

生徒一人ひとりの自覚ある行動が、変わらぬ温かい雰囲気を作っています。

本 年度7月中旬より始まった第2校舎のリニューアル工事に伴い、高等学校の生徒たちは同じ目白にある、川村学園第8校舎での生活をスタートしました。慣れ親しんだ思い出の校舎とのしばしの別れには、言葉にできない寂しさがありました。今は新しい校舎への期待に胸を躍らせています。実際に、一足早く完成した第2校舎の真新しいラウンジや広く使いやすくなった部室を目にした生徒たちは、皆うれしさと興奮を隠せない様子でした。

第8校舎での生活を始めるにあたり、夏休み前の引越作業、教室の整備、水道の増設などを含めた生活環境の整備、安全面の確保など、今までの習慣を見直さなければならぬことや、逆に新たにやらなくてはならないことなどが数多く見つかりました。

例えば、登下校です。駅から学校までの距離は少し近くなったものの、今までとは違い、住宅街の細い路を通らなくてはなりません。駅に続く道ということもあり、人通りも少なくはありません。近隣の方や歩行者に迷惑をかけないように、これまで以上にマナーや節度ある行動が求められますが、生徒たちの自覚に助けられ、大きな問題もなく日々過ごしています。



また、体育の授業ではグラウンドや体育館を使用するため、各学年とも週に2回、第1校舎へ移動をしています。休み時間の10〜15分の間に移動しなくてはなりません。皆速やかに行動し、授業への大きな

支障も出ていません。さらに、クラブ活動でも生徒たちの自主性と判断力が発揮されています。第8校舎での終礼を終えると、生徒たちは活動場所である第1・第2校舎へ移動していきます。クラブ活動は中高生合同ですので、上級生である高校生は、中高間のコミュニケーションを今まで以上にうまく取って、クラブ活動が円滑に進むようにリードしていかなくてはなりません。各クラブともリーダーを中心に、クラブ活動のさらなる充実のために尽力している様子は本当に頼もしいものです。

大変だと思われた第2校舎への移動は、リニューアルが進む校舎を見ることができたり、ラウンジや購買部を利用したり、親しんだ中学校の先生方に会える機会でもあり、楽しみにしている生徒も多いようです。生徒一人ひとりの自覚と協力のおかげで、スムーズにスタートをきることができた第8校舎は、たいま活気にあふれています。友人と学生ホールで楽しそうに談話をしたり、休み時間に教員に質問したりする川村ならではの、いきいきとした生徒たちの姿が毎日見られるようになりました。

高校生だけの生活となり、活動スペースが小さくなったことで「友人、先生とも距離が縮まりアットホームな雰囲気を感じる」という声が多く聞かれます。職員室は校舎の出入り口のすぐ脇に位置しています。大きなガラス窓のおかげで、職員室からは登下校する生徒の姿が必ず確認できます。生徒と教員が顔を合わせる機会も、目を合わせる回数も増え、笑顔やあいさつを交わす回数が増えました。それが生徒たちの安心感につながっていると確信しています。



高等学校「健康ノート」の導入

この時期だからこそ、体力、体調の変化を記すことが大切だと考えます。

こ れまで中学高校6年間を通して、一人ひとりの健康への意識付けができるようにと、先ず、中学校において「健康ノート」を活用してきました。

成長著しいこの思春期に見られる現象として「思春期貧血」（鉄欠乏性貧血）があります。この時期はからだの成長が急激で、それに伴い鉄分の需要が著しく増加して供給が追いつかなくなるからです。それに加え、女子の場合は月経の開始と共に鉄分の喪失が起こることも貧血を助長させています。また、ある産婦人科医によると、貧血

を有する妊婦の多くは、思春期に貧血があったにもかかわらず、それに気づかず、あるいはわかっていても治療を受けずといったという例が多いそうです。

本校では、この実態例を重大なことと受け止め、将来にわたる健康なからだ作りのために、健康教育にしっかりと取り組んでいます。その一例として骨密度検査や貧血検査があります。バランスの取れた食生活の一端を担うように中学校では「会食」を実施し、体力テストの結果をもとに自分自身の体力増進のための課題を見ついたり、体育的行事に目標を設定して取り組むようにしたりしてきた結果、骨密度要注意の生徒が減り、全員が正常域になりました。また、貧血検査では、会食を実施している中学生の正常域が拡大し、著しく要注意・要受診・要検査の生徒が減少しました。

ただし、高校生には中学生ほど良好な変化が見られていないのも事実です。これは朝食摂取がないということやダイエットへの関心から食生活のアンバランスが生じていることなどが原因としてあげられましよう。

そこで、これまで中学校で3年間活用してきた「健康ノート」を高校生にも活用し、中学・高等学校6年間、または3年間を通



して、より一層自分自身の健康についての意識を深め、さらにこの時期の成長の大切な記録として残していくようにしたのです。すなわち乳児期や児童期は保護者がその成長を記録として残していきますが、中学・高等学校の時期からは本人自らが健康への関心を寄せていくことの必要性から始まったのが、この「健康ノート」なのです。この取り組みによって、生徒一人ひとりの将来にわたる健康についての意識が深まっていくことを見守っていきたいと思います。



毎年4月の体力テストは「文部科学省実施要領準拠 NEW体力テスト」に沿って実施しています。「健康ノート」に、上体起こし、反復横とび、立ち幅跳び、握力、長座体前屈、ハンドボール投げ、50m走、1000m走の8種目の記録を残して、体力の変化を把握しつつ、体力増進の課題を見つめる手がかりにも役立てていきたいと思っています。

「NEW体力テスト」はA～Eの段階に区分されていますが、その中で、Aの認定を得た生徒を講堂朝礼にて表彰しています。今年度の対象生徒は、1年生5名、2年生4名、3年生3名で、日々の授業や部活動などのトレーニングをおろそかにしない取り組みの結果が称えられました。



活躍している学生

将来に向かって前に踏み出す意欲！

2 010年度文部科学省学校基本調査によると2009年度大学卒業者は51万人で、その内就職者は39万人(68%)でした。前年度の卒業者は50万人で就職者は38万人(83%)でしたので、その下落は著しいものとなっています。大学院等への進学者は68万人から73万人へと増えはしたものの、他方で就職も進学もしなかった学生は68万人から87万人へと増加してしまいました。

このように大学を卒業していく若者を取り巻く社会情勢が厳しさを増している現状において、大学は社会に送り出す学生たち何れを身につけさせなければならぬのか。21世紀社会は大学卒業者にどのような能力を求めているのか。このことは全ての大学にとってより大きく、かつ現実的な命題となっています。高等教育機関として専門的知識技能の修得は当然のことであり、更なる付加価値を求められています。そのことはもしかすると21世紀の若者に不足してしまつた能力を回復させることを社会が大学に要求しているとも考えられます。

文部科学省の統計資料「日本経済団体2004〜2008年度新卒者採用に関するアンケート調査結果」によると、企業が新卒採用を行うにあつてのポイントが25

項目あり、その中でポイント上位はコミュニケーション能力、協調性、主体性、チャレンジ精神、誠実性、責任感、論理性となっています。一方、学業成績、学校名、所属ゼミ、保有資格などは下位の方に位置する結果が示されています。

川村学園女子大学ではそのような社会が求める要求度の高い能力を育成するべく教育課程内、外における様々な取り組みをおこなっています。教育課程内として導入教育である「基礎ゼミナール」及び、本学への帰属意識を高めるとともに、建学の精神と現代社会との結びつきを現代の学生に分かりやすく理解させる「建学の精神と現代的教養」、自己分析し、自分を知る「ライフ・プランニング」、職業意識を育む「キャリア・プランニング」、論理性・主体性・協調性・コミュニケーション能力を育成する専門ゼミなど。教育課程外としてもStudent Adviser 活動、就職支援サークル、我孫子市教育委員会学校ボランティア協定、本学図書館ボランティア、インターシップ、学生主体の様々な研究会等、大学の支援のもとでコミュニケーション力の向上、主体性、前に踏み出す力の意識向上が取り組まれています。そして学生たちには達成する喜びを実感して欲しいと考えています。

私の宝物Ⅱ 出会い

川 村学園女子大学に、O++(クレイン) という就職活動支援サークルがあるのをご存知でしょうか。O+と書いて「クレイン」と読みます。「クレイン」は英語で「鶴」という意味があります。「C」は「カルチャー」、「E」は「リクルート」、「+」は関わる全ての人に私達の活動が、プラスになるようにという意味が込められています。

私は1年生からO+に参加していますが、当時、4年生がとて大人に見えたことを鮮明に覚えています。O+の活動は、会社に訪問し、社会人や人事の方、また他大学の方との交流をはかります。活動を続けるなかで大勢の人と関わることで、たくさんの方の楽しいことも発見してきました。例えば、OGの方からのお話は、普段聞けないことを身近でたくさん聞け、とても楽しく参考になります。また学内で講演会をしてくださる社会人の方には、必ず質問に行くようにしました。そこから様々な価値観に触れることが出来ました。前向きな行動により、視野が広がり、更に学生生活が充実しました。

サークル活動を通じて出会うことが出来た人生の先輩方は私にとって大きな宝物です。来年度からは4年生としてサークルや史学科の後輩それぞれが、自分の宝物を手を掴めるように支援したいと思っています。

史学科 3年 宮原 果帆



児童教育学科 2年 三五 郁美
濱本 伊津美

わくわくボラたんぼぼ

私 たちは、わくわくボラたんぼぼ(生涯教育研究会)というボランティアサークルに所属しています。毎年6月に我孫子市湖北地区で「げんきフェスタ」というお祭りが開催されています。このお祭りでお化け屋敷と放送を担当するジュニアスタッフクラブという団体のサポーターとして私たちは、企画のお手伝いをしてきました。

小学生たちと一緒に1つの企画をつくっていく間に、皆の前で話すのが苦手だった児童が少しずつ発表できるようになったり、友達と最初は距離をとっていた児童が、協力して作業が出来るようになったりと、様々な子どもたちの変化を目の前で感じる事が出来ました。今回の経験は将来子どもと接する職業を目指す私たちにとってたいへん貴重な体験となりました。サークル活動の他に、学科で募集しているボランティア等、たくさんの方がいるので、これからも積極的に学外活動に力を注ぎたいと思います。

大学図書館ボランティア

私

は4年生になってから、「情報探索アシスタント」として、図書館でボランティア活動をしています。「情報探索アシスタント」というのは、司書資格科目の授業で学んだことをもとに、大学の図書館で学生からの情報探索の相談に乗るボランティアです。

お昼休みに、「マガジンプラス」という雑誌記事データベースの検索方法と「集密書庫」の利用方法の講習会を行っています。初めて「マガジンプラス」の講習会を担当した時には、「参加した学生から「マガジンプラスとは何か」、「検索するときのポイントとは何か」などの質問をされました。質問

に答えることはできたものの、やはり司書の方からの補足説明が必要でした。講習会を何度か経験した今では、学生からの質問に対してわかりやすく答えることができるようになりました。

また、このボランティア活動では、講習会だけでなく書架案内も行っています。特に、1年生から自分が探している本の場所が分からないと声をかけられます。このようなどきは、ただ本がある書架まで案内するのではなく、本がどのように書架に並んでいるか説明しながら、案内するように心がけています。この活動を続け、利用者の役に立てるよう頑張っていこうと思っています。

社会教育学科 4年 沖田 恵



Student Adviser 活動紹介

SAセンターを立ち上げて1年が過ぎました。はじめは運営に戸惑ったり、思うように進まなかったこともありましたが、徐々に自分たちが好きなことを企画して行うことの楽しさに気付き、声をかけ合うことの大切さも感じる事ができた時間でもありました。バーベキュー大会をした時も、当日クラブ活動に取り組んでいた人たちも呼び込んだりして鉄板を囲み盛り上がりました。SAセンターの企画は全ての学生に開放されています。「このイベントは誰々しか参加できない。」というものではありません。学部・学科や学年を越えた「輪」であり「和」だと思うのです。

今年も色々なプチイベントやレクリエーションを企画しました。雨の日を楽しく過ごすイベントとして『シュッシュをつくろう!』、『お料理教室』を行い多くの学生が集まりました。『お料理教室』は調味料を扱う会社の協力を得て開催し、サラダ炒飯、カカオミルクプリン、そして同じ夏野菜を用い、だしの違いで、和・洋・中の汁物に仕上げていきました。メンバーが積極的に先方と打ち合わせを重ねた結果、参加した学生に新しい発見をもたらす好企画となりました。

企画すること、準備をすること、実行すること、そして達成感を味わうこと。反省することもあったりして、その経験を次回の企画に活かそうと工夫すること。そのような体験が大人へのプロセスにつながると思います。SAに参加希望の学生も随時募集しています。また、SAセンター内のフリースペースは、クラブの展示会、ライブ、ミーティングなどにも活用されています。もっともっと多くの人たちのアイデアを集めて企画を練っていきたいと思います。



『お料理教室』(7月1日14号館 調理実習室にて実施)
かぼちゃ、たまねぎ、さやいんげん、おくらがだしの違いで、全く違う味付けの碗やスープになることに驚きました。

2011年度(平成23年度)より、川村学園女子大学は変わります。

社会教育学科では、中学校1種免許状(社会)・高等学校1種免許状(地理歴史・公民)に加え、新たに小学校教諭1種免許状の取得が可能となります。

幼児教育学科では、幼稚園教諭と保育士、または、幼稚園教諭と小学校教諭の免許が取得でき、児童教育学科では、小学校教諭に加え、幼稚園教諭または中学校教諭(社会)の免許

教員免許取得の幅が広がります。

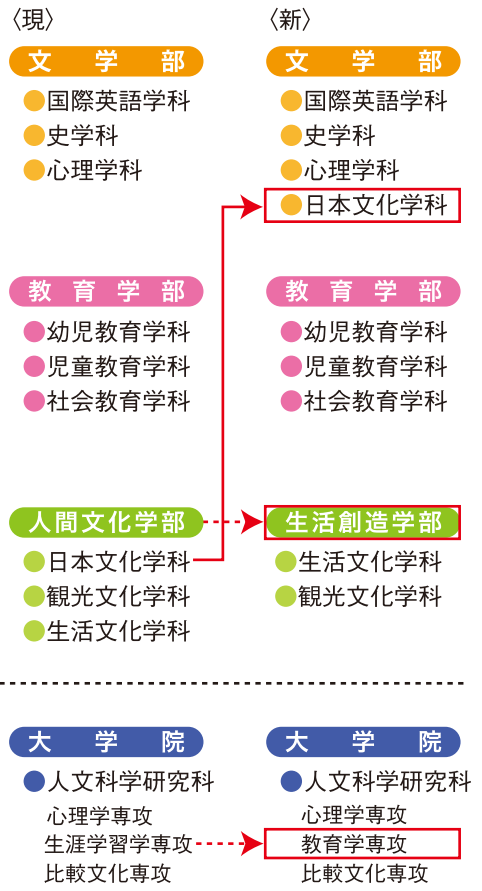
教育学部

高度な英語運用能力の育成及び英語圏の文化に関する研究をする国際英語学科、日本史・アジア史・西洋史に人文地理学を含めた歴史学を学ぶ史学科、臨床心理学・社会心理学・発達心理学・認知心理学の4領域を広く深く学ぶ心理学科に、日本の文化を言語・文学・芸術・民族・思想・宗教などのあらゆる領域から学び、実践する日本文化学科が加わることにより、文学部がより奥深く幅広く展開されていきます。

文学部

日本文化学科が加わります。

川村学園女子大学 改編組織図



生活創造学部が生活創造学部となります。

生活文化学科と観光文化学科からなる生活創造学部は、女性が生涯にわたる生活者として、「衣食住」の基本の上に、生活の質を高める「余暇(ゆとり)」という人間らしさの基本を見直し、自ら生きている社会に創造的に関わりあいを持ち、絶えず新しい生活形態を創出していくことができる人材を養成します。

大学院

教育学専攻を設置。

取得できるようになっていきます。

教育学部3学科が相互に連携を取り、幅広い教員免許取得が可能となりました。(取得する際に条件・制限があります)

生活創造学部

人間文化学部が生活創造学部となります。

『編集後記』

学園広報誌『黄鶴』は、今年度より年1回の発刊となりますが、表紙等のデザインも一新して、学園の教育活動にご理解いただけるためのツールとして発展させていきたいと思っております。なお、『黄鶴』でお伝えしてきた財務状況は、学園ホームページにて公開しております。表紙挿絵にはポタニカルアーティストの山根悦子さんにご協力いただきました。

特集は、創立90周年記念事業として行われている中高校舎リニューアル工事を紹介しております。すでに9月からはラウンジやミーティングルームが使用され、生徒たちの新校舎への期待が一層高まっているようです。

これからも学園の情報をより分かりやすく読みやすくお伝えしてまいります。

黄鶴 第19号(年1回発刊)
 平成22年11月19日 発行
 発行人 学校法人 川村学園
 総合デザイン 萩原 延元
 編集 黄鶴編集委員会

ポタニカルアーティスト

表紙挿絵

山根悦子さん プロフィール

川村中学校・川村高等学校・川村短期大学保育科を卒業後、武蔵野美術短期大学を卒業。今号より黄鶴を刷新するにあたり、表紙挿絵「ホオズキ」のご協力を賜り、優しく繊細な雰囲気、黄鶴を制作することができました。ポタニカルアートとは、植物を観察し、その形や色、特色を写実的にかつ芸術的に美しく描いた絵をいいます。

*

現代童画会会員・日本植物画倶楽部会員。

第12回ハント国際ポタニカルアート展入選、英国王立園芸協会フラワーショー準金賞。

絵本作品として、「ゆうがたさくはなおしろいばな」(月刊「かがくのとも」2010年7月号)を手がけ、ポタニカルアート界において注目の女性画家です。

童話作家

読書教育

岩崎京子先生 講演会

小学校6年生の読書教育では、課題図書『建具職人の千太郎』の作者岩崎京子先生を招き9月14日に講演会を開催しました。

先生は児童の感想の中に、好きな登場人物のことが書かれていたことにふれ、その人物のモデルや名前の由来、性格などをお話くださいました。「アイデアは、実際に自分で歩き、見聞きをして生まれる」とのお考えから、本作品では建具職人の方にお話を聞き、組子のコースター作りを体験されたそうです。また、児童からの質問の一つひとつ丁寧に答えてくださいました。昨年米寿を迎えられたという先生に、皆一様に驚いた様子でした。そして「出来上がった作品に満足しておらず、これからもっと良い作品ができるのではないかと思っております。楽しみに待っていてください」とおっしゃられ、和やかな雰囲気の中、会は終了しました。

